新発田市立外ヶ輪小学校

学校データ
【学級数】
１６学級
【児童生徒数】
３５４人
【地域コーディネーターの有無】
有・無

新発田のよさや人の思いを知り、ふるさとへの愛着と誇りを育む

１　はじめに

当校は、城下町新発田の中心市街地に位置し、校区内には日本100名城の一つ「新発田城」がある。「新発田祭り」「和菓子」等、城下町が育んできた歴史や文化の香り高い地域にある。

近年の少子高齢化により、ふるさと新発田の伝統や文化等の理解と継承が、地域の教育課題の一つとなっている。新発田市では、「しばたの心継承プロジェクト」を推進し、「人とのふれあいや体験活動の充実を図り、ふるさと新発田への愛着と誇りを育む」ことを目指している。

このプロジェクトを推進するための重点単元を主に総合的な学習の時間に設け、地域教育プログラムに位置付けるとともに、実践を通して児童に育成する資質・能力を次のように定めた。

○　地域・郷土で育まれてきた伝統と文化、産業等に触れ、幾多の困難を乗り越えてきた先人の努力等を理解する。（知識・技能）

○　地域・郷土について調査したことを生かし、考えを交流したり、工夫して発表したりできる。（思考力・判断力・表現力等）

○　地域の一員として、地域の発展に寄与しようとするとともに、地域・郷土に愛着と誇りをもつ。（学びに向かう力・人間性）

また、新学習指導要領の全面実施に伴う教育課程の編成では、外ヶ輪っ子に育てたい資質・能力を検討、整理し、主体性、学び合う力、問題解決力、活用力の四つのキーワードを掲げている。

実践に当たっては、地域の外部人材の活用と、ファシリテーションを取り入れた話し合い活動を主な手立てとして、これらの資質･能力の育成を目指している。

２　取組の実際

多くの実践から３学年のものを示す。

(1)　命とわたし～新発見！わたしたちのまち新発田～（３年生）

社会科「命を守る仕事」の警察署や消防署の学習後、地域の自治会の取組や住民の思い･願いについて調べた。児童は、自治会の活動と警察署等との相違点を考え、仕事ではなくボランティアであることに気付いた。自治会がなぜみんなを守りたいという願いをもっているのか話し合ったり、実際に話を聞いたりすることで、自分たちが「地域の宝」として大切な存在であるという視点にも気付くことができた。

３年生　自治会の方との交流

(2)　新発田のじまん「和菓子」（４年生）

新発田城や新発田祭りに慣れ親しんできた児童が多いが、伝統的に受け継がれてきたものの意義や人々の思いには気付

けていない。調べる中で、新発田の和菓子は、「新発田藩主溝口公」や「茶道石州流」とも深く関係していることが分かり、和菓子には歴史があり、なくしてはならないものと考えるようになった。そこで、ファシリテーションを取り入れた話し合いを行い、新発田の和菓子の多くの魅力の中から、一番伝えたいことを選び発信する PR 計画をまとめていった。

４年生　和菓子作り

(3) ふるさとの未来を考える～地域の食を探る～（５年生）

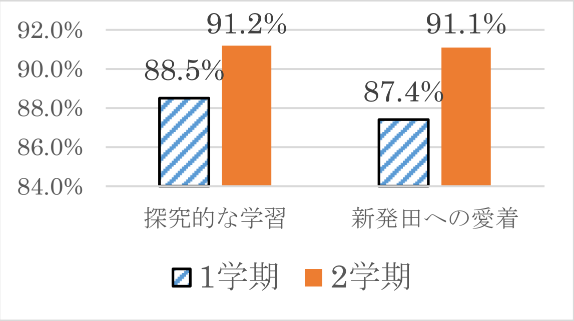
新発田は多様で豊かな食を支える作物の生産が、脈々と行われている。その担い手である生産者の方々とかかわる中で、新発田の食のよさや生産者の熱意等を発信したいという児童の思いが学習課題となった。自分たちにできることとして新発田の食の魅力を伝える「外ヶ輪子どもマルシェ」を開くことにした。自分たちの模擬販売を、実際に販売している新発田農業高校の生徒の販売と比較し、話し合いを通して、自分たちのマルシェに取り入れたいことを多面的・多角的に考えた。

３　成果と課題
及び本実践で育成された資質・能力

(1) 成果と育成された資質・能力

身近にいる地域の人たちや、新発田の歴史・文化・産業等、現在新発田で活躍している人たちとのかかわりを深めていく中で、人々の思いや願いに触れ、探究する課題が生まれた。それは、児童がもった、ふるさと新発田への感謝であり、自慢、誇りが背景にあった。

学校評価項目の指標とした二つについて児童アンケートの結果を分析した。



探究的な学習…課題を見つけ、かかわり合いながら追究した

新発田への愛着…地域のために何かしたいと思う

上の結果から、「地域のために何かしたい」という児童の思いの高まりが、主体的に課題に臨み、解決しようとする姿に結び付いていたと考える。

また、ファシリテーションを取り入れた話し合いの中で、調査したことを「比較する」「分類する」「統合する」「関連付ける」などすることで、協働して課題を解決するなどの学び合う力や思考力等を高めることができた。

(2) 課題

これまで学習のゴールの多くが、自分たちが学んだことをまとめ、学習発表会をもって終わることが多かった。地域の方々から学んだことに自分たちの思いや願いをプラスして返すようなダイナミックな発信の在り方や方法をより一層工夫していく。このように活動を充実させることで、児童の資質・能力がより高い水準で育成されるようにしていく。

４　おわりに

本実践における地域コーディネーターが果たした役割は大きい。今後も地域と学校が一体となって、ふるさと新発田への愛着と誇りを確かに育んでいきたい。